

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（答申）

～すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～

（令和3年1月26日 中央教育審議会）

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

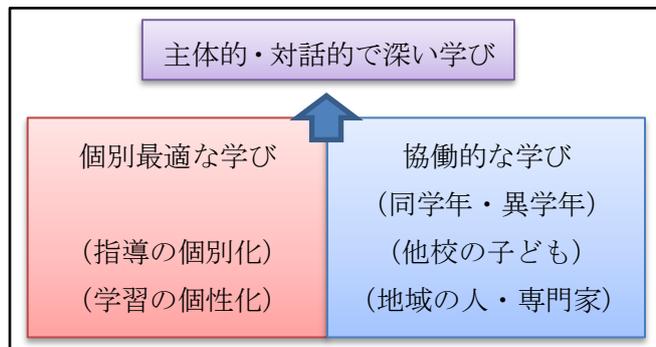
（1）子どもの学び

「・・・すべての子どもに基礎的・基本的な知識・技能等を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自らの学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子どもにより重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの『指導の個別化』が必要である。

基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基礎となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子どもの興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身の学習が最適となるよう調整する『学習の個性化』も重要である。

以上の『指導の個別化』と『学習の個性化』等を教師の視点から整理した概念が『個に応じた指導』であり、学習者視点から整理した概念が『個別最適な学び』である。」

『協働的な学び』においては、集団の中で個が埋没してしまうことがないように、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげ、子ども一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出していくようにすることが大切である。・・・また、『協働的な学び』は、同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや他の学校の子どもたちとの



の学び合いなども含むものである。知・徳・体を一体で育む『日本型学校教育』のよさを生かし、学校行事や児童会（生徒会）活動等を含め学校における様々な活動の中で異学年間の交流の機会を充実することで、子どもが自らのこれまでの成長を振り返り将来への展望を培うとともに、自己肯定感を育むなどの取組も大切である。」

「学校における授業づくりに当たっては、『個別最適な学び』と『協働的な学び』の要素が組み合わせられていくことが多いと考えられる。各学校においては、教科等の特質に応じ、地域・学校や児童生徒の実情を踏まえながら、授業の中で『個別最適な学び』の成果を『協働的な学び』に生かし、更にその成果を『個別最適な学び』に還元するなど、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要である。・・・国においては、このような『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実の重要性について、関係者の理解を広げていくことが大切である。」

以上、「答申」（図：作成 房本）

道徳科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」

このように、道徳科とは、あまり縁がないように思える内容ですが、これまでの道徳授業を改善し、答申の趣旨を取り入れて、その子が、学習したその時点で、深く考えた「最適な学び」を見つけることができる授業にしたいと考えました。

そして、その「最適な学び」をみつけることで、今の自分に対して、自己肯定感や、これからの自分に対して、期待感をもつことにつながるものにしたいと考えました。

また、「協働的な学び」は、すでに、道徳授業で、地域の方々やその道の達人を招いてお話をお聞きすることや、教材の中で、地域や我が国、世界にも目を広げることにも実践されています。それに加えて、友達とともに、これからの、自分や人間関係、社会そして世界の、ありたい姿、あるべき姿を思い描くことで、社会とつながる学びもできます。

それらを踏まえて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化した授業場面、「展開後段の後段」と位置づけ、発問の主語を「あなたは」にした授業を考えました。

「個別最適な学び」（「指導の個別化」「学習の個性化」）に向けて

発問の主語を「あなたは」にして、「個別化」「個性化」「最適化」「共有化」する道徳授業は、本来、自分の内面を見つめる時間で、まさに、「個に応じた指導」です。

ところが、授業は、授業者からのいくつかの発問によって、一部の子どもが答えていく

ものだけになっていたようだと言います。しかも、子どもの様子を振り返ると、どこか他人事、あるいは意見を出す友達まかせという雰囲気も漂っていたにもかかわらず、「だいたいねらいに近い意見が出たな。」と思い、授業を次に進めていたように思います。

最適な学びに向かうとは、特に、展開後段から終末において、多様に出された友達の思いや考え方、価値観から、授業者が、発問の主語を

「あなたは」にして、「あなたは、どうなの。」と問いかけ、子どもが「私は、どうかな。」と自問して、自分を見つめ、これまでの価値観や経験などをもとに、より深くなった自分なりの答えを見つけることではないかと考えました。

その最適な学びに向かうために、つぎの四点を念頭に入れた発問づくりを考えました。

(1) 個別化

教材の中の中心となる人や物、事柄は、それぞれのところでのすばらしさが描かれています。例えば、「IPS 細胞 山中伸弥」では、研究についていけず、辞めてしまおうと思ったときもあった中、患者の病気を治したいという一心で地道に研究を続け、IPS 細胞を見いだすことができた山中伸弥先生のすばらしさはたくさんあります。

そこで、「山中伸弥先生のすばらしいと思うところはどんなところでしょう。」「心に残しておきたいと思うところは、山中伸弥先生のどんな思いでしょう。」などと発問し、子ども一人ひとりが、自分にとってすばらしさを見いだすこともできるでしょう。

また、上記の黒板の「あいさつは、どうして大切なのでしょうか。」という問いに、A～D

あいさつは、どうして大切なのでしょうか。
A 自分も相手も気持ちがいいから。
B 失礼だから。
C みんながしているから。
D 自分の気持ちも伝えることが出来るから。

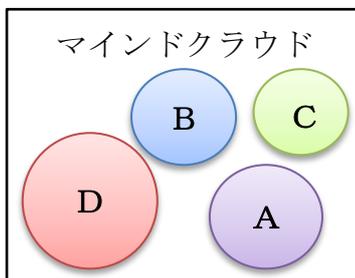
の考え方が出されましたが、「あなたにとって、一番大事なと思う考え方はどれですか。」と問いかけることで、自分にとって大事なことを見いだすことができるのではないのでしょうか。

このように、自分の思いや考え方をしっかりと見出させる時間があるといいと思います。

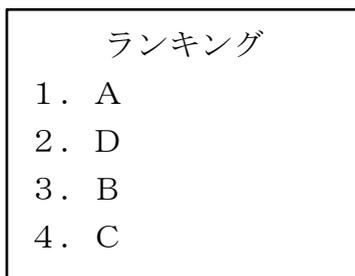
(2) 個性化

自分が考えたことなどの内面を文や言葉で表す、他に、絵や図なども用いて、自分の内面をもっと多様な方法で表すことで、より自覚を深めようと考えました。

例えば、3年生「もっと調べたかったから」（日本文教出版）では、「やりすぎそうのなるとき、それを止める『おまじない』言葉を決めましょう。」という発問をします。同じく、3年生「木の中にバットが見える」（日本文教出版）では、自分が就きたい職業に向けて、「未来予想図を文や絵で描いてみましょう。」という発問を考えました。



その他にも、全体の話し合いによって、A～Dの考えが出された後、それに基づいた、自分の内面を見つめさせるために可視化する方法もあります。マインドクラウドを使うと、自分の考えの中で、4つの考えがどのくらいの程度（大きさ）で納得できているのかが分かります。さらに、「これから、よりよいあいさつができるために、どれを大きくしたいですか。」と、これからのよりよい姿に希望をもつこともできます。



また、ランキングを活用すると、自分の中の重要度が一目でわかり、より強く意識することにもつながります。さらに、友達への説明がしやすくなり、論議が活発になることも期待できます。

考える内容に、できるだけ、子どもの自由度を大きくして、その子その子が、個性を出せることで、学習をより自分のもの

にしやすいようにします。

(3) 最適化

友達から出された多くの考えを見て、「どれもいい。」と思うよりも、「どれがいい。」と思うほうが、より主体的になります。

そこで、「あなたが、一番、大事だと思うのは、どの考え方ですか。」「あなたが、これからも心に残しておきたいと思うのは、どれでしょう。」という発問で迫ります。それに、理由をつけさせることで、今の自分から、少しでもよりよい姿に向かおうとする気持ちが膨らむことが期待できます。

(4) 共有化

一人ひとりが、よいと思って考えたことを、みんなで出し合うことで、学級としてのイメージが生み出されるのではないかと、みんなが「こうなりたい。」「こうあってほしい。」という理想を出し合うのもいいのではないかと、思います。

「手品師」で、「いつか『手品師』のような人に出会いたいと思う人は、どのような人です

か。」と問うことで、「誠実な人」のイメージが共有されることが期待できます。4年生「決めつけないで」（日本文教出版）で、「あなたのクラスでは、分け隔てなく接しているところは、どのようなところですか。」とすると、クラスのよいところが出し合われ、自己肯定感につながります。

「個別最適な学び」の先に

このようにして、子ども一人ひとりが、○年○月○日の時点でみつけた、自分の最適な学びは、実は、未来の自分に送るメッセージなのです。大事なことは、何日か、何か月か経って、○年○月○日の自分を振り返ることです。そのときに、過去の自分から送られてきた「個別化」「個性化」「最適化」「共有化」に対する答え、つまり、自分への自己肯定感や期待感、思い描いた、よりよい姿や生き方、ありたい自分が、そのときの価値観となって、改めて自分を見つめ直すことができ、さらに未来への姿につながると期待しています。

たいへん厳しい状況に出会っても、いつも、最適な学びを求め続け、よりよい姿を思い描きながら乗り越えていってほしいと願うばかりです。